

長崎県嵯峨島チタニウム鉄鉱概査報告

稲井 信雄\*

Résumé

On the Ilmenite at Saga Island, Nagasaki Prefecture

by

Nobuo Inai

The area of Saga Island consists mainly of andesite, basalt, lava and tuff agglomerate, etc. of Neogene. The ilmenite in small amount occurs in vesicular tuff agglomerate.

1. 位置

長崎県南松浦郡三井楽町嵯峨島

2. 鉱床位置

嵯峨島竹島部落東北の独立標高点 106.1m附近。



第1図 位置図

3. 交通

長崎 → 船(九州汽船) → 福江 (約5時間) → バス → 三井楽 (約2時間) → 徒歩 → 貝津 (4km)  
 船 → 嵯峨島港 (4km) → 山路徒歩 → 現場 (1km) (1日1回の往復の船便があるが、天候の都合で欠航することがある)

交通は便利とはいえない。

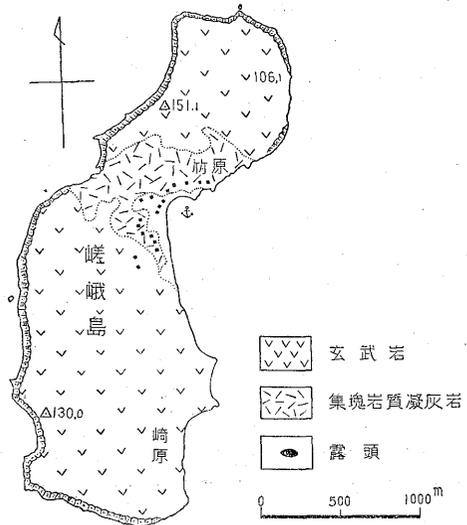
4. 地形

嵯峨島は福江島の西側にある離島で、貝津港から4kmの所に位する。南北に細長い周囲約10kmの島である。島の西側は海面から屹立して、151m、130mの三角点が南と北にあり、おそらく断層崖であろう。東斜面はこの2つの三角点を頂点とした半円錐形にゆるやかな地形を呈して海に没している。

島の中央東側海岸に小漁港がある。

5. 地質

本島の地質は新期火山岩類で、安山岩・玄武岩・凝灰岩または集塊岩質凝灰岩よりなり、おもなものは、玄武岩と集塊岩質凝灰岩である。

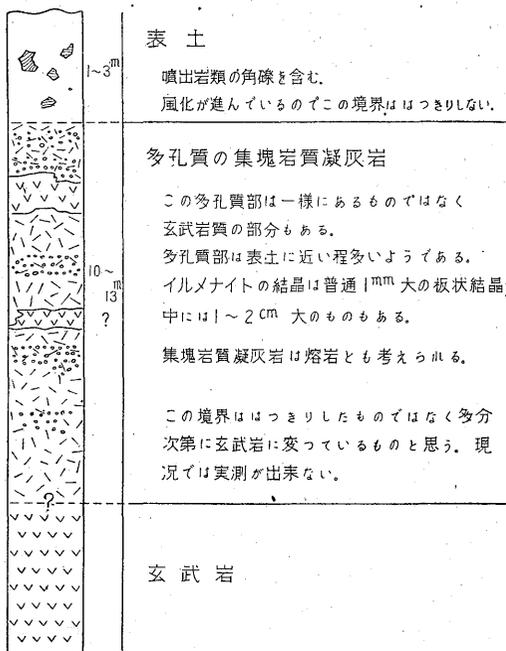


第2図 地質図

\* 福岡駐在員事務所

この島は地質的に3つの部分に分けることができる。すなわち、北部 60m 準以上は玄武岩・凝灰岩・熔岩、中部の低い部分は集塊岩質凝灰岩、南部は玄武岩・凝灰岩・熔岩からなっている。

集塊岩質凝灰岩は海水中に沈積したもののようで、きわめて薄い板状の層理を示し、その厚さは約 10m に及んでいる。この中に安山岩・玄武岩・凝灰岩・熔岩の



第3図 露頭附近断面図

礫を含んでいる。礫は南爪大から小豆大のものまであるが、海岸でみられるものは小豆大のものが多く。

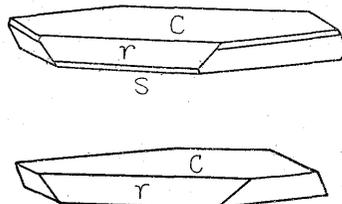
玄武岩は一般に緻密である。凝灰岩はこの玄武岩を覆っているもので、粘土化したものは表土との区別がつかない。

熔岩は多くの場合多孔質で軽石様になっている。一般に黒褐色であるが、表土に覆われているため、その分布は明らかでない。

安山岩の分布は不明である。集塊岩質凝灰岩中に小礫として入っている。

### 6. チタン鉄鉱

チタン鉄鉱を産する地点は図示したように島の北部 100m 準の畑の中である。調査当時採掘跡はまったく埋没しており、そのズリの中から微小な板状のチタン鉄鉱



第4図 Ilmenite

が標本として得られるに過ぎない。その産状は附図スケッチに示した。この板状チタン鉄鉱は多孔質の熔岩または凝灰岩の孔隙の部分に賦存し、その大きき数 cm 大のものがあつたといわれるが、調査当時は 1cm 角大のものが最大で、多くは 1~2mm 程度のもので、量的にきわめて少ない。

結晶は板状菱面体で、光沢強く、石英粒と共出する。現況では鉱物標本的存在であつて、量的に多くを望むことはできない。

### 7. 品位

通商産業局鉱山部で分析した結果は次の通りである。

結晶したもの  $Ti=30.04\%$

(Dana によれば普通のイルメナイトは  $Ti=31.6\%$  となつている)

露頭と称したもの  $Ti=12.03\%$

(この試料は小結晶の附着した凝灰岩である) 埋蔵量については、現況では計算ができない。

### 8. 結論

- 1) 長崎から嵯峨島に至る交通は便利とはいえない。
- 2) 島の西側は断層崖で、急峻であるが、東側は緩傾斜をしている。
- 3) 鉱物は熔岩の多孔質部の空隙に晶出した板状菱面体のチタン鉄鉱である。この多孔質部は表土に近いほど多い。
- 4) 表土が厚く、緩傾斜で、岩石の露出が一般に悪くから探鉱はむづかしいものと認められる。
- 5) 現況ではチタン鉄鉱は鉱物標本的存在であるから、稼行価値が乏しい。

(昭和28年9月調査)